

平成 30 年度

## 第 19 回あいち境界シンポジウム開催のご報告



あいち境界シンポジウム実行委員長 齊藤 武史

先日開催しました「あいち境界シンポジウム」について、  
下記のとおりご報告いたします。

開催日時 平成 31 年 1 月 15 日（火）13：45 開演

開催場所 ウィンクあいち 大ホール

内容 第 1 部 基調講演 14：00～15：00

「災害当事者意識ノススメ」～深く、鮮明に災害を意識し、備える～  
名古屋大学減災連携研究センター長・教授 福和伸夫氏

第 2 部 パネルディスカッション

「狭あい道路解消ノススメ」15：15～16：40

コーディネーター：小島篤実氏（愛知県土地家屋調査士会会員）

パネリスト：福和伸夫氏（名古屋大学減災連携研究センター長・教授）

横井利明氏（名古屋市議員）

鈴木広行氏（岡崎市建築部次長建築部建築指導課長兼務）

藤原光榮氏（兵庫県土地家屋調査士会会員）

来場者	官公署	113 名
	議員	47 名
	他会	51 名
	愛知会会員	151 名
	一般	57 名
	合計	419 名



以上です。大勢の方にご参加いただき、誠にありがとうございました。  
また、同時開催した登記無料相談会についてもご報告いたします。

開催日時 平成 31 年 1 月 15 日（火）12：00～18：00

開催場所 ウィンクあいち 11 階 1109 室

来場者 0 名

こちらは非常に寂しい結果となりました。委員長である私の力量不足、謹んでお詫び申し上げます。

## あいち境界シンポジウム委員長として一言ご挨拶・お礼

この度は、大勢の方に会場まで足をお運びいただき、誠にありがとうございました。特に、ご登壇いただいた福和先生、横井先生、鈴木様、藤原先生、当日の準備・設営からご参加いただきました本会・公嘱協会・政治連盟の役員の方々、並びに相談会の相談員を引き受けてくださった先生方、皆様方のおかげでシンポジウムがとても良い企画に仕上がりました。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

シンポジウムが無事開催され、特に大きなトラブルもなく終われたことに、ホッとしています。事前の準備から開催当日まで、とにかく不安でした。どれだけ委員会ですっかり協議・準備しても、「何か足りないのでは？何かを忘れているのではないか？」と常に自分に対し疑心暗鬼、私の心の中はそればかりでした。それでも会場受付が始まってしまえば「あとはもう、たとえ何かがあったとしても臨機応変に対応する」と開き直りました。それができたのも、伊藤会長や委員会メンバーとの綿密かつ膨大な協議と、準備につき込んだ時間と労力によって築かれた「現時点でできることは全てやった」と思える自信の表れだったのかもしれませんが。

恥ずかしい話ですが、「満員御礼の札を掲げて、遅れてきた来場者に頭を下げながら入場制限を告知する私」そんなシーンを妄想していました。でも現実は一層厳しく、蓋を開けてみれば来場者は前述のとおり。シンポジウムは800人収容可能な会場でようやく半分、相談会に至っては0人。人を惹きつける、人を呼び込む、人を集めることの難しさを痛感しました。



それでも繰り返しますが、シンポジウム実行委員会は「現時点でできることは全てやった」という自負はあります。短い期間の間にいろいろと細かい協議や作業もしましたし、全く未知の新しいことに挑戦もしました。全てを語るには文章では難しく割愛させていただきますが、委員会メンバーを始めとする本会役員、支部長会の皆様、ご協賛いただいた公嘱協会の皆様、全力で後方支援いただいた政治連盟の皆様、多くの方々からたくさんのご協力をいただきました。大変ありがたく、そしてその結果、シンポジウムの内容は大変充実したものを提供することができたという達成感があり、それと比例して来場者の感想は非常に好評だったことをここにご報告いたします。

次回のシンポジウムは誰が担当し、どのような内容になるのか全く分かりません。私自身は今期を持って理事職を退かせていただきますので、私が続投することはありませんが、委員長を務めた私から次回に向けて最後のお願い。次回のシンポジウムも今回と同様、たくさんの方々のご支援を賜りたく、また、より多くの会員の皆様のご来場をお願い申し上げます。皆様、この度はどうもありがとうございました。